更新日：令和４年４月１日	
文学研究科　学位論文（修士論文）審査基準	
1. 修了基準について	必修 12 単位、選択 18 単位の合計 30 単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。
2. 審査基準	
学位論文（修士論文） 審査の要点	**評価基準１（論文の形式）** △論文の枚数が規定に達しているか（執筆要項参照）。 △章立てが適切か。 △引用文が的確かつ必要最小限であるか。 △コピー＆ペースト等の無断引用や論旨の盗用がないか。 △脚注等がわかりやすく提示されているか。 △参考文献が適切に提示されているか。 △必要な図表等が適切に提示されているか。 **評価基準２（論文の内容）** △序論において論文の狙いが適切に指摘されているか。 △テーマの設定が適切か。 △対象としている文学作品の理解が適切か。 △対象としている作家の生涯や主張や時代状況などの把握が適切か。 △作品が発表された当時の評価と現在の評価との推移を適切に把握しているか。 △作品および作家の文学史上の位置づけの認識が適切か。 △既存の文献や学説にはない新たな視点があるか。 △既存の文献や学説にはない新たな論旨があるか。 △その新しさを際立たせる既存の文献の引用や学説の紹介が適切か。 △論理の展開が適切で説得力があるか。 △文章が正確でわかりやすいか。 △論文としてのまとまりがあるか。 △論文としてのインパクトがあるか。 △修士論文としての一定の水準に到達しているか。

文学研究科　学位論文（博士論文）　審査基準	
1. 修了基準について	必修 12 単位、選択 8 単位、合計 20 単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格しなければならない。
2. 審査基準	
学位論文（博士論文） 審査の要点	**評価基準１（論文の形式）** △論文の枚数が規定に達しているか（執筆要項参照）。 △章立てが適切か。 △引用文が的確かつ必要最小限であるか。 △コピー＆ペースト等の無断引用や論旨の盗用がないか。 △脚注等がわかりやすく提示されているか。 △参考文献が適切に提示されているか。 △必要な図表等が適切に提示されているか。 **評価基準２（論文の内容）** △序論において論文の狙いが適切に指摘されているか。 △テーマの設定が適切か。 △対象としている文学作品の理解が適切か。 △対象としている作家の生涯や主張や時代状況などの把握が適切か。 △作品が発表された当時の評価と現在の評価との推移を適切に把握しているか。 △作品および作家の文学史上の位置づけの認識が適切か。 △既存の文献や学説にはない新たな視点があるか。 △既存の文献や学説にはない新たな論旨があるか。 △その新しさを際立たせる既存の文献の引用や学説の紹介が適切か。 △論理の展開が適切で説得力があるか。 △文章が正確でわかりやすいか。 △論文としてのまとまりがあるか。 △論文としてのインパクトがあるか。 △博士論文としての一定の水準に到達しているか。 **評価基準３（後期博士課程の博士論文）** △当該研究が国内および国外の学術的な水準に到達しているか。その領域に新たな貢献ができる内容になっているか。 △当該研究に類似した既存の研究について的確に言及し、なおかつ当該論文の独自性や優位性について的確に論証されているか。 △文章の表現や展開、定義や実証などが一定の水準に到達しているか。 △研究者としてのモラルが守られているか。 △学術論文の査読を学外で受けたことがあり、かつ全国学会誌や国際的な学会誌等に掲載されたことがあるか。

執筆要項（修士・博士共通）

△修士論文の場合は、規定枚数を400字詰め原稿用紙（換算）100枚前後とする。
△博士論文の場合は、単行本1冊相当は必要であるが、具体的な枚数については指導教員の指導に従うこと。
△原則として、日本語で書くこと。
△ワープロの場合は縦書きで印刷すること（ただし比較文学など欧文の引用が多い場合を除く）。タテ40字×ヨコ30行など、製本したときに読みやすい状態になるよう配慮して印刷すること。
△規定の部数を査読用として製本業者に製本してもらうこと（仮製本でも構わない）。提出部数や提出後の上製本（本製本）等については指導教員の指示に従うこと。
△表紙には、タイトル、学籍番号、氏名、教員名（主査および副査）を明記すること。
△第1部、第1章、第1節、第1項……など章立てをおこない、目次をつけること。
△日本において刊行された縦書きの学術書、原稿用紙の書き方等に基づき、適切なワープロ処理をおこなうこと（数字の「縦中横」など）。
△引用文についてはその文章が引用であることが明確にわかるように示し、
　また必ず出典を明記すること。
△引用文については、本文にて言及し、なぜ引用したのかが明確にわかるような論理構成を考えて述べること。
△論文の狙いを序論で示し、各論を展開したあとで、最後に結論の部分で明確な論旨を示すことが望ましい。
△必要に応じて脚注、注釈、補足説明を適宜挿入すること。
△巻末に参考文献を正確に記すこと。
△必要に応じて図表、年表、画像、写真、グラフ、フローチャート図などを挿入することができる。ただし公表する場合には、著作権に抵触することがないかを検討すること。
△書道作品の研究、古典芸能の研究、小説創作の研究など、作品創作の方法論や技術論の研究の場合、修士論文とは別に、その方法論や技術論を実際に応用して、作品を創作することができる。その場合は、修士論文に副次的に創作作品を添付して提出することが可能である。なお、博士論文においてはその限りではない。
△「武蔵野大学研究活動規範」を遵守すること（詳細は、大学HPを参照のこと）。

詳細は指導教員とよく話し合い、指示に従うこと。